

吹く風に頼らず！

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

株式業界では「申年は騒がしい」と言いますが、まさに上海株式市場の暴落からの世界同時株安、サウジアラビアとイランの国交断絶、北朝鮮の水爆実験情報など、年明けから騒がしい状態が続いています。昨年末に本コラムでも書いたとおり、21 世紀に入って 15 年間に撒かれた「種子」が一斉に芽を吹き出したような風景です。何よりも現象が国際化していて、日常の目に見える範囲だけでは予想もつかない出来事の連続です。人間の能力を超えた情報の巨大化と高速化、テクノロジーの加速化で社会の至る所にブラックボックスがあって、さまざまな地点で突発的に変化が生じたように見えてしまいます。昔のようにプロセスを踏んで変化を理解するという牧歌的な時代ではなさそうです。

政治の年

1 月 4 日から始まった国会は、「7 月 10 日」の衆参同時選挙を狙ったものだという話があります。確かに衆参同日選挙となれば野党の足並みは乱れますから、あながちな話ではありません。5 月下旬に開催される主要国首脳会談（伊勢志摩サミット）で外交的成果を収めることが出来たとしたら、現政権には追い風になります。そして 2017 年 4 月に予定されている消費税増税を再度スキップすることに関して国民の信を問えば、相当な支持を集めるかもしれません。折しも、アベノミクスで獲得した外為特会と失業者が減ったため積み上がった労働保険特会の益金が 20 兆円ほど発生し、「埋蔵金」という呼び名でマスコミに取り上げられ始めました。消費税 1%は約 2 兆円ですから、年間 4 兆円ほどの増税分に対して資金的手当がつけられるとしたら、再度の消費税スキップはありえない話ではありません。自民党と公明党の他に大阪維新の党というパートナーを見つけた現政権は、なりふり構わず憲法改正に必要な国会の 3 分の 2 を目指して突っ走るかもしれません。

そして、秋には米国の大統領選挙が行われます。一般的には民主党のクリントン氏が優勢とされていますが、共和党のトランプ氏も侮れません。1981 年のレーガン大統領も最初は泡沫候補扱いでしたが、民主党・カーター大統領のイランアメリカ大使館人質事件などに対する優柔不断な外交政策に失望した

国民は、あっさりとレーガンを選びました。クリミアや中東でまったく有効な手が打てていない民主党政権に国民が失望した時、思いもよらぬ結果が生まれないとも限りません。

「自立組織」の覚悟

中小企業は大手企業と違い、後ろから支えてくれるものではありません。系列の金融機関があるわけではなく、ましてや公的支援など無縁です。東芝やシャープは助けても、われわれ中小企業を助けることなどありません。中小企業組織を本当に支えるのは「緻密な先見性を持った経営者」と「情熱を持った従業員」だけです。

仲間や部下の悪口など言っている暇はありません。外部環境を嘆いていても事態は一向に変わりません。ましてや、誰かの助けを当てにしても誰も助けには来ません。自分の身は自分で守る、という大原則しか中小企業にはないので、労働環境を整え、適切なインフラ投資を行い、生産性の向上を本気になって考えなければ中小企業組織は沈んでしまいます。

毎月、福岡で開催している「とじき塾」の1月のレジュメ表紙にこんな文章を書きました。

「自立組織とは、吹く風に頼らず、流れる水に任せず、エンジンを磨き、乗組員を鍛え、自ら舵を切る組織のことである！」

時代の枠組みが音を立てて崩れていきます。たとえどんな風が吹き荒れようと、きちんと自立した組織を作らなければなりません。「組織活性化活動」の必要性はなお一層高まっています。今年も全力を挙げて企業組織の活性化の手伝いをさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

